恩林寺広報

No 115

令和元年（二〇一九）盛夏号
臨済宗建長寺派東光山恩林寺
電　話　〇二七六―八八―三五六四
FAX　〇二七六―八八―四一三二
郵便番号　三七〇―〇六〇一

●お施餓鬼会のご案内

来る八月十四日、午前十一時より例年の通り山門大施餓鬼会を厳修致します。餓鬼道に苦しむ餓鬼のみならず、無縁仏や三界万霊（あらゆる精霊）に施しの法要を修し、併せてご先祖様のご供養を行います。尚、施餓鬼塔婆を建て、ご供養なされます方は、八月十日までに直接当山へお申し込みください。

◆塔婆料　一霊　三千円

◆施餓鬼塔婆は、法要厳修後にお渡しします

●暑中お見舞い申し上げます

恩林寺	閑栖　前田明堂
〃	住職　前田貴洲
〃	責任役員　小林武男
〃	〃　松原荘一
〃	〃　堀越眞澄
〃	檀徒総代　加藤和久
〃	〃　小林誠
〃	〃　茂木勲
〃	〃　鴇田征史
〃	〃　阿部照美

奉讃会役員一同

第十四回　夏休み親子坐禅会

夏休み恒例の坐禅会を、今夏も開催致します。坐禅や読経、写経など、禅寺ならではの体験をしてみませんか？親子に限るものではありませんので、奮ってご参加ください。

●日時　令和元年七月二十五日（木）
◎午前の部　九時より十一時まで
◎午後の部　二時より四時まで

●会場　恩林寺

●参加費　親子で八〇〇円（子供お一人増すごとに五〇〇円）茶礼代、写真代、教材費等含む。

●締め切り　七月二十三日（火）までに、直接当山へお申し込みください。（電話での申し込みも可能です）

●詳細など、お気軽にお問い合わせください。

お盆の供養は最大の供養
私たちは先祖によって護られている

お盆は、あの世で苦しむ人がいたら、救ってあげたい、という願いから始まった

今年もお盆の季節がやってまいりました。一年でいちばん暑い日に、御先祖さまが帰ってくる。先祖、亡き父母が帰ってくる。お盆は仏さまの里帰りの日です。

お盆の語源は「ウランバナ」という昔のインドの言葉。漢字にすると「盂蘭盆」。それを略したのが「お盆」です。

ウランバナとは「倒縣」を意味します。これは「さかさまに吊り下げられた苦しみ」と説明されています。

お盆の供養は、餓鬼道におちているかもしれない人がいたとしたら、なんとしても救ってあげたい、という願いから始まったことは確かなようです。

そのことが説かれているのが「仏説盂蘭盆経」という経典です。

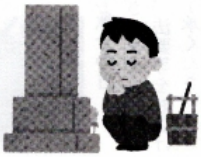
「地獄で仏」という言葉がありますが、お盆と関係があるのですか

ひと口に先祖といいますが、その数は無数です。その先祖の一人でもいなかったら、現在の自分は、この世に存在しません。

もちろん先祖のすべてが餓鬼世界におちている、というわけではありません。しかし、もし苦しんでいる霊がいるとしたら、お盆の供養は、まさに「地獄に仏」、大きな救いになるにちがいありません。

そのように先祖を供養できるお盆の行事は、まことに有難く意義深いものです。

家族・親類の供養をうけた先祖さまが、彼らを守ってくれる、とされているのです。お盆にお寺の御住職が檀信徒の家にきて、お経をあげてもらうのは、そのためです。



お盆のはじまりは、「仏説盂蘭盆経」に由来する

餓鬼道とは苦しみの世界。お釈迦さまの弟子の目連さまの母も、そんな世界で苦しんでいました。目連さまは神通力でそのことを知りましたが、自分の力では母を救うことができません。目連さまは、お釈迦さまに教えを乞いました。

お釈迦さまは「目連よ、おまえの力で母を救うことはできない。七月十五日は、僧侶の修行が終わる日だから、その日、多ぜいの僧を招いて、食物をはじめ香油、寝具などを整え供養しなさい。そうすれば母は救われるだろう」

お釈迦さまの教えのとおりすると、母は餓鬼道から救われた、という話がお盆のはじまりです。

先祖、亡き父母の姿は目には見えない。見えない生命に対する想いと供養。お盆の心です。

見えぬけれども
眼には見えないけれど
目連尊者は
天眼通という神通力で
亡き母の、飢えに
苦しむ姿を見ました。
肉眼に見えないものが、
なぜ見えた？
昼のお星はめに見えぬ
見えぬけれどもあるんだよ。
見えぬものでもあるんだよ。
昼間の空の星のように、
見えぬけれど　いる人に
見えぬものでも
あるいのちに
感謝と祈りをささげよう。
〔金子みすゞの詩から〕

●新盆をお迎えする家

故人名	年齢	施主名	住所
城田キミ	八五	城田勝浩家	川崎市
久保田サイ	九〇	久保田彰一家	太田市
加藤元一	八五	加藤正之家	邑楽町
鈴木洋子	五七	鈴木幸雄家	邑楽町
田沼キヌ子	九一	宮下芳典家	邑楽町
山崎浩男	七一	山崎隆志家	館林市
前原章輝	七九	泉原文子家	明和町
岩垂誠子	九七	岩垂聰家	邑楽町
小林雅子	六六	上月弘子家	神戸市
飯塚稔	六二	飯塚幸太郎家	邑楽町
上武美江子	九三	上武有美家	足利市
小田切マキ	九〇	石井明家	邑楽町
小林素四郎	七八	小林茂章家	足立区
塙典子	七八	塙昌信家	館林市
秋森とめ	九五	秋森英勝家	江戸川区
岩崎孝	四八	岩崎進一家	邑楽町
山高司	九五	高山一希家	邑楽町
里見勇	七五	里見八重子家	邑楽町
前川絹子	三九	前川孝久家	邑楽町
駒崎とり	一〇〇	駒形洋子家	館林市

（令和元年六月二十五日現在）

謹んでお見舞い申し上げます。合掌

お盆の準備

宗派や地域によって異なる場合もありますがお盆を迎える準備として、前もって仏壇や仏具を清めておきます。そして墓掃除も丹念にしておきましょう。

●精霊棚をしつらえる

ご先祖の霊をお迎えする為に準備はしっかりしておきたいものです。お盆に帰って来られるご先祖を「精霊さま」と呼びます。その為にしつらえるのが「精霊棚」です。「精霊棚」は、帰って来られたご先祖様がしばしの休息をする場所です。果物や野菜などを供え、ご先祖様をもてなすのです。「精霊棚」のキュウリの馬、ナスの牛は、ご先祖様の乗り物とされています。

●迎え火（八月十三日）

夕刻に菩提寺にて灯明を戴き、ご先祖様をお迎え下さい。火を焚くのはご先祖への思いやりの心です。ご先祖に対する供養の心が火を焚く行為だと言えます。

●ご供養（八月十四、十五日）

お盆中は灯明を絶やさず、迎え入れたご先祖様のご供養をします。また、当山では十四日に大施餓鬼会法要を営み、ご先祖供養を致して居ります。ご都合に合わせ「盆供」の受付をお済ませください。

●送り火（八月十六日）

十三日に訪れたご先祖の霊がお帰りになる日です。送り火はご先祖が迷わず帰れるよう、照らしてあげるものです。

●施餓鬼会

お盆の期間に営まれる行事は「施餓鬼会」です。この行事は、餓鬼に食物を施す事によって六道の一つ餓鬼世界で苦しんでいる餓鬼を救う行事です。もし自分の先祖が餓鬼世界で苦しんでいるとしたら、何としてでも救ってあげたいものです。餓鬼は自分の力では苦しみから脱する事はできません。施餓鬼の供養がその救いの道とされている、究めて功徳の大きい行事です。

●「送り盆」時のお願い

各家精霊棚にお供え戴いて居りました供物につきまして、「ナス」「キュウリ」については当山にて処分致しますが、**それ以外の供物等につきましては寺へ持ち込まず、ご自宅にて処分戴きます様、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。**